



ダイズほ場の帰化アサガオ類とアレチウリの防除技術

近年、ダイズほ場で帰化アサガオ類やアレチウリが多く発生しているのを見かけます。これらは熱帯アメリカや北アメリカ原産の帰化植物で、ほ場に侵入してまん延すると甚大な被害が生じます。1回の防除処理で確実に効果をあげるのは困難なので、いくつかの手段を適切に組み合わせて防除効果を高める必要があります。

〈帰化アサガオ類の防除〉

本県ではマルバルコウ、アメリカアサガオ、マルバアメリカアサガオ、マメアサガオ、ホシアサガオが確認されています。これらは4月中旬ころから10月まで発生し、8月中に発芽した株は結実します。そのため8月までの防除が大事です。

1. 土壌処理除草剤

研究機関で行われた試験の中で、アサガオ類に比較的効果が高い結果が得られた土壌処理剤は表1のとおりです。いずれも40～50%の防除率がありました。完全に抑えることはできませんが、かならず施用しましょう。

表1 アサガオ類に効果のある土壌処理除草剤の例（令和4年5月30日現在）

薬剤名	使用量	使用方法	使用時期	使用回数	散布液量
コダールS水和剤	225～300g/10a	全面土壌散布	は種後出芽前（雑草発生前）	1回	70～100ℓ/10a
フルミオWDG	5～10g/10a	全面土壌散布	は種後出芽前（雑草発生前）	1回	100ℓ/10a

2. 茎葉処理除草剤①（全面茎葉処理）

土壌処理剤で防除できなかったアサガオ類は茎葉処理剤で防除します。一例として、大豆が本葉2葉期にアタックショット乳剤全面茎葉処理を行います。さらに発生が多く続く場合は、1～2週間後にバサグラン液剤の全面処理を行います。いずれの除草剤も大豆に葉害が生じますが、その後回復します。

表2 アサガオ類に効果のある茎葉処理除草剤の例（令和4年5月30日現在）

薬剤名	使用量	使用方法	使用時期	使用回数	散布液量
大豆バサグラン液剤（ナトリウム塩）	100～150mℓ/10a	雑草茎葉散布または全面散布	ダイズの2葉期～開花前（雑草の生育初期～6葉期）（但し収穫45日前まで）	1回	100ℓ/10a
	300～500mℓ/10a	畦間雑草茎葉散布※	ダイズの生育期（雑草の生育初期～6葉期）（但し収穫45日前まで）		
アタックショット乳剤	30～50mℓ/10a	雑草茎葉散布または全面散布	本葉2葉期～開花前（雑草生育期）（但し収穫45日前まで）	1回	100ℓ/10a

注）※大豆バサグラン液剤は全面茎葉処理以外に畦間処理もできます。畦間処理は専用器具が必要です。

3. 茎葉処理除草剤②（畦畔・株間処理）

以上の対策でも十分防除できない時は、非選択性茎葉処理除草剤で株間・畦間処理を行います。株間処理はダイズ本葉5葉期以降に、アサガオ類が「つる化」していないタイミングで、ダイズ本葉にかからないように散布します。散布には専用器具が必要です。

表3 株間・畦間処理ができる除草剤の例（処理法のうち畦間・株間処理のみを示す）（令和4年5月30日現在）

薬剤名	使用量	使用方法	使用時期	使用回数	散布液量
バスタ液剤	300～500mℓ/10a	雑草茎葉散布	収穫28日前まで（畦間処理：雑草生育期）	3回以内	100～150ℓ/10a
		雑草茎葉散布	収穫28日前まで（株間処理：本葉5葉期以降雑草生育期）		

〈アレチウリの防除〉

1. アレチウリの防除技術

よく生育した株の茎長は10m以上となり、わずかの株でほ場一面をおおってしまうこともあります。4月から出芽が見られ、10月までだらだらと発生します。開花は8月下旬に始まり、9月以降に出芽したものは開花・結実します。防除対策はアサガオに準じます。なお、アレチウリに直接塗布する除草剤（タッチダウンiQ 2倍液：雑草生育期 但し収穫7日前まで 2回以内）（令和4年5月30日現在）を専用の塗布器で処理すると効果的に防除できます。

〈その他の注意点〉

アサガオ類やアレチウリは、ほ場の中や周囲だけでなく、道路や水路脇、河川敷などに大きな群落を作っていることがあります。まん延を防ぐためには、ほ場だけでなく地域全体としての防除が重要です。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 NEWS は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。